

2017年度 学校関係者評価委員会  
報告書

平成29年7月7日(金)開催

学校法人 産業技術学園  
北海道ハイテクノロジー専門学校

学校法人産業技術学園 北海道ハイテクノロジー専門学校

学校関係者評価委員会議事録

1. 開催日時 平成29年7月7日(金) 10:00~12:00
2. 開催場所 北海道ハイテクノロジー専門学校 本校舎 113教室
3. 出席者総数 17名 欠席2名
4. 参加者

<学校関係者評価委員参加者>

業界関係者 足立 普 (医療法人北晨会 恵み野病院 事務長)  
業界関係者 松本 耕二 (株式会社 恵庭リサーチ・ビジネスパーク 代表取締役社長)  
業界関係者 真鍋 淳 (医療法人社団 マナベ矯正歯科 理事長)  
卒業生代表 佐藤 忠寿 (医療法人 養生館 苫小牧日翔病院 主任)  
保護者代表 松本 晴美  
高等学校関係者 大場 真哉(帯広大谷高等学校 教諭)  
近隣関係者 早坂 貴敏 (恵庭市議会議員)

<学校側委員参加者>

宮川 藤一郎 学校法人 産業技術学園 北海道ハイテクノロジー専門学校 理事長  
塩野 寛 学校法人 産業技術学園 北海道ハイテクノロジー専門学校 学校長  
小川 昭久 滋慶学園グループ 運営本部長  
正垣 雅規 学校法人 産業技術学園 理事  
高橋 久美子 学校法人 産業技術学園 北海道ハイテクノロジー専門学校 副校長  
切明 毅 学校法人 産業技術学園 北海道ハイテクノロジー専門学校 事務局長  
荒 耕児 学校法人 産業技術学園 北海道ハイテクノロジー専門学校 事務部長  
蔵崎 美佳 学校法人 産業技術学園 北海道ハイテクノロジー専門学校 教務部長  
山口 敏史 学校法人 産業技術学園 北海道ハイテクノロジー専門学校 キャリアセンタ  
ー長  
田辺 敦 学校法人 産業技術学園 北海道ハイテクノロジー専門学校 学生サービスセ  
ンター長

<欠席者>

古島 昭博 学校法人 産業技術学園 常務理事  
荒島 真一郎 学校法人 産業技術学園 北海道ハイテクノロジー専門学校 副校長



## 1. 会議の概要

- (1) 各委員の紹介
- (2) 学校長、学園理事長、運営本部長挨拶
- (3) 平成28年度学校関係者評価委員会 評価結果及び改善方策の各項目について説明  
および各委員より質疑応答

項目については以下の通り

1. 教育理念・目的・育成人材像
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 教育成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生募集と受け入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献
11. 国際交流

## 会議の詳細

定刻、司会進行の荒事務部長より開会宣言があり配布資料の確認後進行した。

### ① 学校長挨拶

お忙しい中お集まり頂きありがとうございます。2時間協議検討頂き、良い結果がでるようよろしくお願いいたします。

### ② 理事長挨拶

本年度委員のご就任ご承諾ありがとうございます。職業実践専門課程の制度は平成26年にスタートし初年度は1817校中470校認定を受け、平成29年は902校で32%となりました。

委員会は年に2回で趣旨は組織的実践的に行われているかを確認すること。学校関係者評価委員会では運営全体を、教育課程編成委員会ではカリキュラムの内容。講師のご意見や業界のご意見を頂き、PDCAサイクルがうまくまわっているかを確認すること。

委員の皆様にはご忌憚のないご意見をいただき、より一層の努力をしたいよろしくお願いいたします。

### ③ 正垣理事挨拶

お忙しい中ご出席頂きありがとうございます。

昨年委員の皆様のご意見を頂き、学校運営を行ってきたつもりですが、更なる進化のため今年度もご意見を頂き学校運営、教育に反映させていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

### ④ 切明局長

滋慶学園グループ校では認定校54校で85.7%、227学科(63.9%)、北海道ハイテクノロジー専門学校は10学科。頂いた意見を教育にどう反映するのかがわれわれの仕事。

本校は1988年開校し、来年30周年を向える。昨年の委員会で、企業自治体との連携を深めることで学生の可能性が広がるとのご意見を頂き、恵庭市との「包括連携協定」および「災害時における協力体制に関する協定」を締結した。

### ⑤ 荒事務局次長より、配付資料に基づき、北海道ハイテクノロジー専門学校 学校関係者評価結果および改善方策の中で、自己評価が2点以下の項目の説明が為された。

#### 1. 教育理念・目的・育成人材像

1-3 平成29年度の方策はリーダー育成プログラムを実践し、地域課題解決型教育を更に推し進めること。

#### 2. 学校運営

2-7 就業規則にそって運営している。教員、講師の満足度を高めていくのを目標に、中・長期を見据えた運営方針。

#### 3. 教育活動

3-10 教育指導要領で学科毎教科目標を定めている。

3-15 蔵崎部長 FDCとはファカルティデベロップメントコーディネーターのことであり、以前授業アンケートはマークシートだったが、現在はアンケートを行わず授業そのものに特化してプロジェクトを組み、

より学生の立場で取り組んでいる。

3-17 蔵崎部長 キャリアサポートアンケートハンドブックとは、滋慶学園グループとして作成しているもので、入学してきた学生の特性をすぐを知るためにアンケートをとり支援していく。その支援の方法や面談時のカウンセリングマインド、ポイント。入学したが、その学科が自分の思っているものと違った、そのような学生に進路アドバイスをする方法・手続き。キャリア教育を行う専門学校として教えるのはもちろん、社会人としての身構え気構え心構え等をどのようなプロセスで教えるのか、またクラス方針のヒントなどノウハウを集めた資料。

3-19

大場委員 平成28年度の国家試験合格率が上がっている。日ごろの教育活動の取り組みの成果と感じている。

荒部長 平成27年度は救急救命士学科と義肢装具士学科の合格率が、平成28年度は歯科衛生士学科が全国平均を下回った。

蔵崎部長 平成28年度から国家試験を意識したカリキュラムを組み、指導体制の見直しをした。

#### 4. 教育成果

4-21

正垣理事 平成28年度は国家試験不合格者16名 次回必ず合格させることが大事。国家試験サポートシステムがあり、学費を徴収せず、登校し在校生とともに授業をうけられる。

4-22

松本晴委員 保護者の立場として、資格を取得するサポート力はあるが、学生はそれに甘えてしまう。学生は自覚を持ち入学しているので、その気力というか基本的なところをサポートするのが難しいと思う。就職できればよいが、こども保育学科1年生は昨年の入学者の半分と聞いている。職種自体が厳しいのか。

宮川理事 入学から夏休みの間まで学生が自発的に取り組めるようなカリキュラムを組んでいる。

蔵崎部長 人間教育として、自ら学ぶ仕掛け作りをしている。今年度は入学前からコミュニケーションワークを実施し、相手を思いやる気持ちをまなび、なぜこの仕事につきたいのか考えることをしている。

バイオテクノロジー学科では自分で実験プログラムを組み立てることを試験的に導入した。

宮川理事 他校の中途退学率は約6%、本校は1%未満と低いが、それ以上に目的をしっかりと持った学生を育てることをテーマにしている。

#### 5. 学生支援

5-24

山口センター長 業界・職種にあった指導をしている。各業界の求める人材について聴取しフィードバックをしている。

5-26

田辺センター長 学費は一括納入だが、分割納入も出来るように支援をしている。職業実践給付制度は社会人学びなおしの機会に有効。現在30名利用している。

5-27

切明局長 一次検診の受診率は100%だが、二次検診には課題が残る。

## 6. 教育環境

### 6-33

荒部長 海外研修は金銭的に難しく、学科間で合同研修ができるよう計画を考える必要がある。

### 6-34

切明局長 今年は5月19日に午前・午後・夕方と分け計3回の訓練をしている。

## 7. 学生の募集と受け入れ

### 7-36

荒部長 13学科中、定員を満たしている学科は看護学科のみ

切明局長 新しいものを取り入れ成長してきている学校でもあるので、これからも取り入れ新たな学校造りをしていきたい。

## 8. 財務

### 8-42

切明局長 平成28年度財務諸表はホームページにて公開している。

## 9. 法令等の遵守

### 9-44

荒部長 職員は研修を受講している。学生・講師もITリテラシー冊子で勉強している。

切明局長 学生は簡単につぶやいてしまう。実名をあげてしまう。不特定多数の人が見ているということを認識させなければならない。

大場委員 高等学校でも大きな問題となっている。個人を特定されるものもあり、学校間の問題になることもあり、他校との調整をしなければならないこともある。

## 10. 社会貢献

### 10-47

切明局長 学園全体で25のプロジェクト503名が参加している。北海道ハイテクノロジー専門学校のみでは約350名。

## 11. 国際交流

### 11-49

荒部長 渡航費用の問題で実現が出来ていない。本校への留学生は日本語学科他全14名、他学科とのイベントや部活動で交流している。

切明局長 項目毎に厳しい目で見ていただきたい。平成29年度重点目標は～最先端の学びで自分の未来に挑戦するプロを育成する～ ITメディア学科 eスポーツプロフェッショナルゲーマー専攻ではTV取材が入った。新たな学びで平成29年度後半及び平成30年度やっていきたい。

足立委員 恵庭市を明るくしてもらっている。これからも発展して行っていただきたい。

佐藤委員 取り組みの結果が見えないところがある。

荒部長 改善点は見える化をしていきたい

松本晴委員 委員は今年度初めてで、評価はむずかしい。学生アンケート、職員アンケート等の評価など昨年との比較がわからない。

大場委員 昨年からみて成果として数字に現れているのではと思う。連携しながらこれからもお世話になっていきたい。

早坂委員 卒業生として、当時の先生方の思いが理解できていなかった。卒業して学んだ部分も多かった。人との出会いで学びもあり、ボランティア等増やして頂ければと思う。

松本耕委員 熱心に評価されていると感じた。国家試験サポートシステムは学生側からすれば魅力的では。身構え気構え心構えは学生のうちに身につけることが大事。就職してからコミュニケーションが取れなかったり、管理職についたときに職業訓練を行ってきた人間とのギャップなどがある。

真鍋委員 学生と社会人とのギャップに悩まぬよう、歯科アシスタントを行い、学生のうちから社会とのコミュニケーションをとって欲しい。財務状況が心配。定員未達やeスポーツなどは10～20年後を考えていかないと厳しいと思う。自己評価は昨年度と比較があればよりよい。

切明局長 項目毎に評価とご意見を頂き反映させていきたい。ご記入頂き7月28日金曜日までに送付ください。

荒事務部長より閉会宣言がなされた。

以上